

令和元年度第2回狭山市協働推進協議会会議録

- 開催日時 令和2年1月15日（水）
午後3時00分から午後5時00分まで
- 開催場所 狭山市役所 7階職員研修室
- 出席者 天谷委員、安藤委員、小川委員、後藤委員、豊泉委員、中村委員
南部委員、横山委員、小山委員、田中委員、石川委員 田口委員
- 欠席者 水村委員、本橋委員、宮地委員
- 事務局 協働自治推進課長、協働自治推進課主幹、協働自治推進課主事
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者 なし

1 開会

2 委嘱状交付（田中委員）

3 会長あいさつ

4 議題

（1）協働によるまちづくりの推進について

（2）協働によるまちづくりを推進する仕組みについて

（事務局より説明）

協働によるまちづくり条例で定める基本的施策（4）「協働によるまちづくりを推進するために必要な仕組みを整備すること」について、協働によるまちづくり条例の市民検討委員会において、まちづくりセンター（仮称）設置の提言をいただいた。活動をするうえで必要な「人、物、金」について相談やマッチングができる場所として機能させていくためには、どのようなことが必要と思うかご意見を伺いたい。

〈質疑応答・意見〉

会 長 色々なまちづくり活動が行われているが、より一層まちづくりを推進していくために何が必要かを話し合うことが、この協議会の役割だと思っている。みなさまからアイデアや知恵をいただき、まちづくりセンター（仮称）のイメージを固め、何かを生み出す母体として機能するようなものにしていきたい。協働によるまちづくりを進めていく仕組みづくりについて、それぞれの立場からどんなことが必要かなどご意見を伺いたい。

- 委員 地域の方達とワークショップを行い、課題や強み、アイデア等について考え話し合ってきた。その中には、助成金等のサポートにより、少しずつ実現ができてきているものもある。このまちづくりセンター（仮称）もサロンのようにちょっとした相談ができる場をイメージしている。また、現在、色々な活動が地域で行われているが、活動している人が偏っている感じがする。そのため、違った人達を巻き込んでいくためにも、地域の中に相談する場所はいっぱいあった方がいいと思っている。
- 委員 都心からのアクセスが良いことが狭山市のメリットだと考えており、都内在住の方をターゲットとして農業体験を実施することで、少しずつ狭山をアピールしている。農家の間では、横の関わり合いが少なくないうえに、徐々に就農者数が減少している中で、他業種と繋がり六次産業を進めていくことができると農業の発展と狭山市の活性化が進むと思っている。
- 委員 協働によるまちづくり条例制定に向けた提言書の取組みイメージの内容が実現されそうで喜ばしく思っている。まちづくりセンターのイメージを考えていくにあたって、会議のような堅い雰囲気では多様な意見はなかなか出てこないと思う。サロンの様に緩い雰囲気の中で情報交換できる場がまちづくりセンター（仮称）のイメージである。“農”が農業関係者だけでなく、市全体のまちづくりをしていくための一つのインフラとして使えると思う（グリーンインフラ）。
- 委員 まちづくりセンター（仮称）について、狭山市ビジネスサポートセンター（Saya-Biz）と似たような印象を持った。“センター”という名称だと面白くない。地域の人が集まることができるようなコワーキングスペースなどを用意できると、自由にワークショップが行われたり、まちづくりに興味を持たない人も入ってくることに繋がり、多様性を広げていけると思う。“まちづくりに関る”というよりも“狭山市に住む人が集まれる場所”になるといい。
- 委員 サロンなどの人が集まる場所には、まちづくりに対する意識の高い人が参加していると思う。なにかやってみたいという人が、必要な資金等を調達するためのクラウドファンディング（この指とまれ方式）のようなものがまちづくりセンター（仮称）でできるといい。また、何かやる一歩手前の人々が気軽に試行できるような場になるといい。
- 委員 「協働で何かやりたい」と思ったときに、誰に聞けばいいのか、人を紹介できる場であってほしい。協働に利用できる個人や団体の情報を集約し、困りごとを抱える人に対して提供できるような場であってほしい。

委員 形だけでなく、中身についてももしっかり考えていきたい。緩いコミュニケーションができる場を作ることができることで、新たな展開を図ることができると思う。二足の草鞋を履く人（活動を複数行う人）がいると、携わっている事業間の中間支援役として機能することができるかと体験して感じた。

委員 まちづくりセンター（仮称）という名称を聞くと、ハードをイメージすると思う。また、商工会議所とも似た印象があり、差別化を図る必要がある。まちづくりセンター（仮称）の機能については、相談に来られる方の視点から何が必要かを考えながら作っていきたい。また、狭山市民だけでなく、市外の人も相談に来ることができるような場所になると、狭山市の関係人口の拡大に繋がるチャンスだと思う。機能については、今だけを見るのではなく、10年後を想像しながら、若い世代をどのように地域に巻き込んでいくか考えて検討していくことが大事だと思う。

委員 新しいものを作るよりもあるものを整えるということが大事だと思う。相談に応じたり、色々な主体とマッチングできるような場所があると、若い世代の方達も活動に参加しやすくなると思う。

委員 現在、サロン活動を行っているが、来る人の8割が繰り返しの参加であり、新規の方の参加が少ない。また、昨年7月から新たに生活支援事業を立ち上げ、チラシ等を配布したが、地域の方に周知しきれていなかった。これらの活動を通じて、想定していたことと現実にギャップが生じてくること、存在を認識させていくことが困難なことを感じた。このようなことがあることを踏まえたうえで、まちづくりセンター（仮称）を検討していきたい。

委員 多様な市民の想いを輝かせていくためのまちづくりセンター（仮称）とイメージしている。場所は、（人材育成を目的とした）さやま市民大学事業が行われている狭山元気プラザをイメージしており、隣の狭山台図書館と連携することで、子どもから大人まで繋がることのできる場になると思う。自由に使える会議室やスタジオ等のスペースができるとよいと思う。

委員長 地域商社のようなものができること、狭山市の産業や人づくりが前進し、多くの繋がりが生まれ、観光や商品開発等のさまざまな手助けができるようになると思う。

みなさまからいただいた意見を集約しながら次のステップに進めていきたいと思う。

(3) その他

事務局 令和元年度は、今回が最後の会議となる。令和2年度では、本日もいただいた意見について再度協議し、具体的な形にしていきたいと思う。

5 閉会